

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	広島大学	申請大学長名	浅原 利正
申請類型	複合領域型（横断的テーマ）	プログラム責任者名	岡本 哲治
整理番号	E02	プログラムコーディネーター名	神谷 研二
プログラム名	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

広島大学は、世界で最初の被爆地に誕生した総合大学であり、広島原爆被害からの復興を支えてきた。特に、原爆放射線医科学研究所（原医研）は、放射線影響・医科学分野における我が国最大の大学附置研究所として、医歯薬学総合研究科（平成24年4月医歯薬保健学研究科に改組）とともに被爆者医療を担う医療人を養成してきた。さらに、21世紀COEプログラムでは、ゲノム障害科学を基盤とした新しい放射線災害医療の学術を切り開き、国際共同研究などを通じた若手研究者の育成に取り組んできた。また、原医研は放射線影響・医科学研究の全国共同利用・共同研究拠点として全国の放射線影響研究関連研究者の支援、育成にも取り組んでいる。さらに、我が国の緊急被ばく医療の拠点として2004年には「西日本ブロックの三次被ばく医療機関」に選定され、その実務活動を展開するとともに、国際的な緊急被ばく医療ネットワークである国際原子力機関（IAEA）のRANET及びWHO-REMPANに参加し国際的活動にも取り組んできた。

福島第一原子力発電所事故を受け、広島大学は、延べ1,330名以上に及ぶ「緊急被ばく医療チーム」を派遣し、福島における緊急被ばく医療体制の確立・維持を指導してきた。原発災害では、人体障害や環境放射能汚染だけでなく、環境放射能汚染に対する不安とストレスの増大により、結果的に人や社会までもが破綻されることが明らかとなった。また、今回の原発災害への対応から、放射線被ばくに関する正確な学術基盤に基づいて、さまざまな分野で正しく社会をマネージすることができる人材が絶対的に不足していることが明らかになった。このような人材は、国際的にもその育成が緊急課題となっている。即ち、21世紀社会では、医療や産業での放射線利用や開発国での原子力開発はますます加速しており、国際情勢の不安定化は核テロの脅威さえも生んでいる。その一方で、放射線の安全を担保するシステムの脆弱性が明らかになっており、このような社会状況の変化に対応し、放射線安全や放射線防護、そしてそれが破綻した場合の放射線災害とその復興を指導できるグローバルリーダーの育成が国際的に求められている。このような人材の育成には、放射線災害医療を核に環境科学、社会科学や教育学等の幅広い学際領域を包括的に統合した新しい学術である「放射線災害復興学」を基盤とした高度な教育が不可欠である。しかし、その必要性と緊急性にもかかわらず、それを実施できる機関は国際的にも極めて限られている。広島大学は、原爆からの復興を支えた実績を有することから、広島大学こそが放射線災害からの復興を「横断的かつ統合的にマネージできる人材」を育成できる最も高い能力を有する総合大学であり、このような人材の育成こそ原爆被災を経験した広島大学の使命と考えている。

本プログラムでは、原爆からの復興を支えた広島大学の実績と経験を生かして、医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学等の各専門学術分野を結集し、「放射線災害復興学」を確立し、放射線災害から生命を護る人材、放射能から環境を護る人材、放射能から人と社会を護る人材

を育成する。分野融合型専門教育として、放射線災害医療コース、放射能環境保全コース、放射能社会復興コースを置き、共通科目、専門プログラム、コースワークとして、ヒロシマ・フェニックストレーニングセンターでの実践トレーニング演習を提供する。さらに、東北大学、福島県立医科大学、福島大学、長崎大学との現地フィールドワーク、放射線医学総合研究所と放射線影響研究所が参加した連携大学院や、海外連携大学、IAEA及びWHO、関連企業、地方自治体での国内外インターンシップ等の実践教育を活用して、放射線災害に適正に対応し、復興に貢献できる判断力と行動力を有した、国際的に活躍できる分野横断的統合的グローバルリーダー（フェニックスリーダー）を育成する。これらの教育を通して育成された人材により、放射線災害からの復興を牽引し、21世紀のモデルとなる、安全・安心の新社会システムの樹立に貢献する。

2. プログラムの進捗状況

- 平成23年度に設置した学長を機構長としたリーディングプログラム機構、フェニックスリーダー育成プログラム運営会議、コース別会議、指導担当者会議、教員連絡会議、評価委員会、教育委員会、入試委員会、学生生活委員会、国際交流委員会、情報推進委員会、フィールドワーク実施委員会、ヒロシマ・フェニックストレーニングセンター等の各種委員会及び包括支援を行う教育・国際室コラボレーションオフィスによる企画・運営・連携体制を強化するとともに、東北大学、長崎大学を連携機関として加える等、国内外の連携機関との協力態勢を強化した。
- 平成24年度は17回のプログラム全体会議、24回のプログラム運営会議、その他委員会等を開催し、プログラム全体で情報の共有を図った。
- フェニックスリーダー育成プログラム専門家会議を開催し、プログラム入学予定学生との意見交換会を行った（平成24年5月16日）。
- フェニックスリーダー育成プログラムの共催により、プログラム入学予定学生も参加し、日本口腔科学学会学術集会市民公開講座「放射線災害復興の道 -広島、長崎から福島へ-」を開催した（平成24年5月17日）。
- IAEA健康部長のDr. Chhemを招いて、プログラム担当者及びプログラム入学予定者との意見交換会を行うとともに、「第54回 広島大学講演会」を開催した（平成24年5月24日）。
- 東京及び広島（学内）で入試説明会を実施した（平成24年6月）。
- 合宿形式（1泊2日）による平成24年10月入学第二次学生募集第二次選抜試験（英語によるプレゼンや口頭試験、面接）を外部企業からの試験委員（中国電力原子力担当、三菱重工）とともにやり、平成24年10月入学第一次学生募集の合格者5名に加えて、3名の合格者を受け入れることとした（平成24年7月7日-8日）。
- ギャップターム期間中に海外語学研修（フロリダ州立大学3名、フランスACCORD語学学校1名）及び国内語学研修（派遣講師による個別研修2名）を行った（平成24年8月-9月）。
- 南相馬市役所、南相馬市立総合病院及び福島大学うつくしまふくしま未来支援センターを訪問し、本プログラムとの連携体制の強化や、フィールドワークの実施等について意見交換を行った（平成24年8月9日）。
- ヒロシマ・フェニックストレーニングセンターの準備に際し、プログラム担当者に対して機器説明会を行った（平成24年9月10日）。また同日、eラーニングポータルフォリオシステムの説明会も併せて開催した。
- フェニックスリーダー育成プログラム第1期生8名を迎え入れ開講式を行い、プログラムがスタートした（平成24年10月1日）。
- 社会人プログラム履修生のために、テレビ会議システムによる双方向授業を開始した（平成24年10月3日）。
- 社会人プログラム履修生のために、Mediasite（授業登録配信システム）による授業を開始した（平成24年10月5日）。
- 広島大学ブラジルセンター（サンパウロ市）で実施された広島大学セミナーにおいてプログラムの説明を行い、その後ブラジル国家原子力エネルギー委員会（CNEN）ブラジル所長Cintia Melazo Dias氏とプログラムについて協議、ブラジル政府関係機関である高等教育支援評価機構（CAPES）、

- 国家科学技術審議会（CNPq）を訪問しプログラムの説明と意見交換を行った（平成24年10月8日-11日）。
- ・ フロリダ州立大学での語学研修に参加したプログラム履修生による語学研修報告会を行った（平成24年10月22日）。
 - ・ IAEAのDepartment of Nuclear Sciences and Applications, Division of Human Health 主催で開催された、Consultants' Meeting “Global Radiation Medicine: Education Challenges for Academia” に、岡本哲治プログラム責任者、神谷研二プログラムコーディネーター、細井良夫プログラム担当者が招聘され、“Challenges and opportunities for strengthening global radiation medicine education”及び“Phoenix leader education program for renaissance from radiation disaster”と題した講演を行い、当該課題について議論した（平成24年10月29日-11月2日）。
 - ・ フェニックスリーダー育成プログラムのホームページをリニューアルした（平成24年11月末）。
 - ・ 広島（学内）、福島、東京、大阪、福岡で入試説明会を実施した（平成24年11月-12月）。
 - ・ 語学力の向上を図るため、学生の語学能力に応じた国内語学研修を実施した（平成24年12月-平成25年2月）。
 - ・ フェニックスリーダー共通コースワーク演習科目のBusiness Continuity Management (BCM) について、ISO22301を取得し災害や事故に備えた事業継続の実施計画を策定・運用・見直しの管理プロセスを含めたマネジメントのノウハウを持つThe British Standard Institution (BSI, 英国規格協会)グループジャパンより講師を招いて概要説明会を行った（平成25年1月28日）。
 - ・ 8名の外部評価委員（柴田徳思（株）千代田テクノル）、長瀧重信（公益財団法人放射線影響協会）、宮川清（東京大学）、山下隆（中国経済連合会）、Dr. Rethy K. Chhem (IAEA)、Dr. Jacques Lochard (ICRP)、Dr. Albert Lee Wiley (RECT/TS)、Dr. Tom K. Hei（コロンビア大学）を招いて第1回外部評価委員会を開催した（平成25年2月10日）。
 - ・ 広島にて第2回フェニックスリーダー育成プログラム国際シンポジウム「放射線災害復興への提言」を開催し、国内外の放射線被ばく、災害、心理学等の専門家（Dr. Rethy K. Chhem(IAEA)、Dr. Jacques Lochard(ICRP)、下條信輔（カリフォルニア工科大学）、柴田徳思（株）千代田テクノル）、野原精一（国立環境研究所）、Dr. Albert Lee Wiley (RECT/TS)、Dr. Tom K. Hei（コロンビア大学）による講演や、プログラム履修生3名を交えたパネルディスカッション、プログラム履修生他の大学院生によるポスターセッションを行った（平成25年2月10日-11日）。
 - ・ 平成25年10月入学学生募集選抜試験を実施し、2名の合格者を受け入れることとした（平成25年2月16日-17日）。
 - ・ 海外語学研修（フロリダ州立大学3名）及び国内語学研修（派遣講師による個別研修、英語4名、フランス語1名）を実施した（平成25年2月-平成25年3月）。
 - ・ プログラム担当者と大学病院職員によるトレーニングコース受講を実施済であったオークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センター/訓練施設（REAC/TS）を視察し（平成25年2月25日-26日）、平成25年6月及び8月にプログラム履修生をトレーニングコースへ受け入れることが了承された。
 - ・ ベトナムの国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学及びホーチミン市医科薬科大学においてプログラム説明を行い、次年度に外国人留学生の推薦を受けることが了承された（平成25年2月27日-3月1日）。
 - ・ インドネシアの原子力・エネルギー庁やBOS財団等においてプログラムの広報活動及び入学試験に関わる情報収集等を行い、次年度の入試における「外国人留学生推薦選抜」枠の設置に向けて検討を行った（平成25年2月28日-3月1日）。
 - ・ 福島を訪問し、福島の子供たちのためのストレス対処法を学ぶ市民シンポジウムに参加するとともに（平成25年3月3日）、福島大学とフィールドワークに関する意見交換を行った（平成25年3月4日）。
 - ・ 東京で開催された、博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2012に参加し、フェニックスリーダー育成プログラムについてポスター発表を行った（平成25年3月15日-16日）。